

公立置賜南陽病院勤務医及び看護師負担軽減計画

令和6年7月現在の勤務医の勤務状況(令和6年7月時点)

- 1 医師数 常勤2名、非常勤 43名
2 常勤医師週当たり勤務時間 38時間45分
3 病床数 50床

(勤務医及び看護職員の負担軽減のための取り組み方針)

勤務医及び看護職員の負担軽減を図るため、他職種職員との役割分担の見直しを継続するとともに、業務内容に見合った医療クーク及び看護補助者を配置する。

項 目	目 標	現状・令和5年度実績	目標達成のための手順	達成項目評価		達成目標		中間評価	最終評価
				令和6年3月		令和7年3月		令和6年11月	令和7年3月
1. 医師当直・日直回数の減少	医師4名だけで、宿日直を担うことは不可能なことから、山形大学医学部附属病院及び公立置賜総合病院に宿日直の応援を依頼し、医師の負担軽減を図る。	常勤医による日当直回数 月平均4回程度	1、予算を確保の上、総合病院医局を窓口ToLeft記回数が増加しないよう調整を依頼。(毎月達成できる)	☐		☐	100%		
2. 入院患者の薬剤の投与量の調整	医師の事前の指示の下に、下剤や睡眠剤等の薬剤の投与量を調整	回診に参加し医師との情報共有 2名の薬剤師によるダブルチェック	1、病棟配置薬剤師が入院時情報を共有しアドバイスを行う。 2、入院患者の薬剤に関する疑義照会依頼への対応(2項目達成で100%)	☐	100% 2項目クリア	☐	100%		
	予測される症状に対応できるよう医師の必要時指示を受け、薬剤を調整								
3. 静脈注射	医師の指示の下に、看護職員が看護基準に基づき静脈注射及び点滴実施	IV研修終了ナース配置 スタッフはナーシングスキルでの研修済	1、医師指示により安全に静脈注射を実施 2、異動者に関してナーシングスキルによる研修実施。(2項目達成で100%)	☐	100% 2項目クリア	☐	100%		
	I Vナースを病棟所属とし、病棟スタッフ指導、及び院内スタッフ指導を行う事で、安全に静脈注射を実施する								
4. 薬剤の管理	1、病棟の薬剤管理、ミキシング、与薬等の準備を含む薬剤管理については、医師や看護師に加え薬剤師も積極的に関わり、注射剤の調整や副作用等についての情報を提案 2、患者持参の薬剤は、すべて薬剤部にて保管管理し看護室での管理の負担をなくすことで看護師の業務軽減に努める 3、患者持参の薬剤を有効に利用し、医師の業務軽減と病院運営に寄与する。	朝の申し送りに薬剤師が参加し、情報を共有	1、病棟配置薬剤師による入院患者の薬剤に関する情報提供 2、入院時持参薬の管理、および服薬指導 3、看護師からの情報をうけ、処方など薬剤に関する情報を薬剤師が医師に伝え指示を仰ぎ、看護業務の負担軽減を図る(3項目達成で100%)	☐	100% 3項目クリア	☐	100%		
5. 医師事務作業補助者の配置	外来・病棟業務担当の医師クークを配置し勤務医の負担軽減を図る	現在、泌尿器科担当医師の外来業務及び、内科担当医師の外来と病棟業務に3人、外科と内科科医師の病棟業務に1人を配置(外来コマ数の増加に伴い6年度よりクーク1名増)	1、初診の患者の問診を看護師が行いクークが電カル入力 2、予約の外来患者の予診を行い電カル内入力 3、予約入院や緊急入院等の入力補助、入院説明業務 4、検査オーダー時は看護師の指示のもと手順について説明 (4項目達成で100%)	☐	100% 4項目クリア	☐	100%		